

いわせほっとニュース

<http://iwase-hp.jp>

発行日 2015年8月21日

〔公立岩瀬病院の基本理念〕

患者さん中心の医療を実践し、地域の皆さんに信頼される病院をめざします。



手術中の大谷聡医師

目次

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| ◆ Dr's Cafe 急性虫垂炎のお話 …………… 2 | ◆ 第10回 楽・楽けんこうウォーキング …… 5 |
| ◆ オープンシステム総会開催 …………… 3 | ◆ 病院用語ナビ |
| ◆ シリーズ チーム医療 ⑥ …………… 3 | 『東洋医学の考え方』 …………… 6 |
| ◆ 医療関連感染対策 ② …………… 4 | ◆ 健康レシピ …………… 6 |
| ◆ 院内職場紹介 | |
| 「手術室・中央材料室」 …………… 4 | |
| ◆ 連携医療機関紹介 …………… 5 | |

急性虫垂炎のお話



急性虫垂炎は日常診療における代表的な急性腹症ですが、診断、治療法の進歩に伴い、いまだに学会で話題になることが多い疾患です。

最近、虫垂炎の患者数は激減しているといわれています。これは診断が正確になされ、他疾患が除外されるようになったためと考えられています。当院においても最新の高解像度CTや超音波検査機器、それらを駆使するスペシャリストのサポートもありほぼ100%の正診率を誇ります。

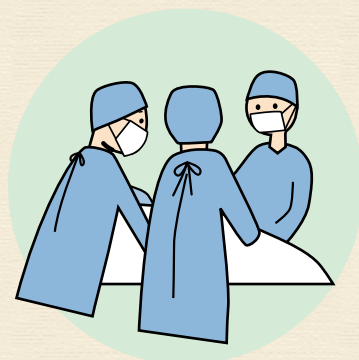
虫垂炎の原因はリンパ濾胞や糞石による虫垂内腔の閉塞→虫垂壁の感染→血流障害が病態として説明されています。「スイカの種が原因」との根拠は不明ですが古くから気象との関連が指摘されてきました。2008年に日本大学の間宮らは虫垂炎と気象観測値との間に明らかな関連は認めなかったと報告しており、現時点では虫垂炎＝気象病とは言えないようです。しかし、虫垂炎症例はある特定の日に集中することが多く、気象病あるいは伝染病ではないかと考えられる時もあります。

虫垂炎の治療は手術療法と抗菌薬による保存療法に大きく分けられます。これまで100年以上にわたり緊急開腹手術が当然の治療とされてきました。



これは経過とともに虫垂は穿孔するという概念が影響しているといわれています。現在では抗菌薬の進歩により軽症例では

90%以上の確率で保存療法が奏功しますが10~35%の確率で再発を認める問題もあり、やはり手術がgold standardと言えます。



近年の腹腔鏡手術の普及は目覚ましいものがあります。当院においても腹腔鏡下虫垂切除術を標準術式としており、早期退院が可能です。また、当院の特色としては傷を3mm-3mm-5mmの3か所と他施設よりさらに小さな傷で行っている点が挙げられます。腹腔鏡手術は緊急時に施行できない施設もあるようですが当院ではスタッフの協力により休日、夜間でも腹腔鏡で対応しています。

数年前までは重症の虫垂炎に対し緊急開腹手術を施行してきましたが腸管の合併切除、手術部位感染などにより長期入院を要する症例も少なくありませんでした。近年、抗菌薬により一旦炎症を軽減させ、2、3ヶ月後を目安に腹腔鏡下虫垂切除術を施行する治療法が普及しつつあります。当院においても術後在院日数の中央値はわずか2日と良好な手術成績が得られている一方で初診時に虫垂周囲膿瘍や糞石を認める症例では抗菌薬が奏功しにくいことが判明したため、今後さらなる検討が必要と考えています。

研修医の頃の右下腹部痛＝虫垂炎→即緊急開腹手術の時代から比べると虫垂炎に対する診療はずいぶん進歩したものだと感じています。「外科医はアッペ(虫垂炎)に始まりアッペで終わる」「たかがアッペ、されどアッペ」の言葉の意味が最近理解できたような気がしています。



オープンシステム総会を開催しました

平成27年6月19日(金)グランシア須賀川を会場に、平成27年度オープンシステム総会を開催しました。これは、地域の連携医療機関の先生方をはじめとする方々と当院の連携を深める目的で毎年開催しているものです。



勉強会では、公立岩瀬病院内視鏡科部長の國分政樹医師が「内視鏡でできることー当院で行っている治療内視鏡を中心に」として発表を行いました。当院で行われた実際の治療の様子などを交え内視鏡が「見る時代」から「治療も行える時代」に移行している状況について解説しました。

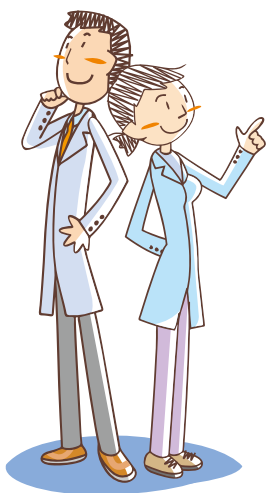
続いて須賀川医師会副会長の佐藤裕行先生(佐藤歯科医院)に、「認知症患者と歯科治療～医科・歯科のより強い連携を目指して～」としてご講演頂きました。口腔機能の低下は認知症の要因のひとつであることや、健全な口腔機能の重要性などについてお話しいただきました。

今回は昨年を上回る238名の方々にご参加頂き、地域の医療・介護に携わる他職種の方々が情報交換し連携を深めました。



シリーズ チーム医療 ⑥ 「自分の科から見るチーム医療について」

訪問看護ステーション 主任看護師 結城 光



公立岩瀬病院訪問看護ステーションは看護職員5名と事務職員1名で、訪問看護サービスを提供しています。平成26年度の診療報酬改定で「機能強化型訪問看護ステーション」が創設されました。24時間体制・在宅での看取り・重症者対応などの要件を満たし、当ステーションも届出(全国の届出は3%)しています。病院の機能は治療に専念することになり、状態が落ち着くまで長期にわたって入院することは困難なため、治療が終われば即退院というケースも多くなると思います。

訪問看護では、自宅での状態安定とともに入院医療で行われていた医学的管理も必要となるため、今以上に病医院・歯科・介護・福祉との密な連携が重要となります。チームの一員として、地域の拠点となるよう取り組んでいきます。